

# Dell EMC Server Deployment Pack for Microsoft System Center Configuration Manager バージョン 4.1 ユーザーズ ガイド

## メモ、注意、警告

 **メモ:** 製品を使いやすくするための重要な情報を説明しています。

 **注意:** ハードウェアの損傷やデータの損失の可能性を示し、その危険を回避するための方法を説明しています。

 **警告:** 物的損害、けが、または死亡の原因となる可能性があることを示しています。

<b>章 1: はじめに</b> .....	<b>4</b>
本リリースの新機能.....	4
Dell EMC Server Deployment Pack 機能の概要.....	5
Dell EMC Server Deployment Pack 向け Configuration Manager および Operating System Support Matrix.....	6
複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ.....	7
<b>章 2: Configuration Manager を使用する前に</b> .....	<b>8</b>
Dell EMC Server Deployment Pack 向けの推奨 Dell Deployment Toolkit バージョン.....	8
<b>章 3: System Center Configuration Manager 実行システムでの Dell EMC Server Deployment Pack の使用方法</b> .....	<b>10</b>
Dell ドライバ CAB ファイル.....	10
起動イメージの作成用の Dell ドライバ CAB ファイルのインポート.....	10
Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード.....	10
Dell ドライバ CAB ファイルによる起動イメージのカスタマイズと OS の導入 .....	11
PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成.....	12
起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化.....	12
コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート.....	13
オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定.....	13
タスクシーケンスの導入.....	14
Dell Deployment Toolkit.....	14
ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート.....	14
DTK パッケージのアップグレード.....	15
DTK による起動イメージのカスタマイズ、ハードウェアの設定、および OS の導入.....	15
System Lockdown モード.....	15
サーバーのハードウェアコンポーネントの構成.....	16
タスクシーケンス処置の設定.....	17
RAID および iDRAC 用のタスク シーケンスの作成.....	23
Dell サーバードライバパッケージのインポート.....	25
<b>章 4: トラブルシューティング</b> .....	<b>26</b>
コマンドラインインタフェースを使用して RAID をシステムに適用しようとするエラーが発生する.....	26
<b>章 5: コマンドラインオプション</b> .....	<b>28</b>
<b>章 6: デルのその他のマニュアル</b> .....	<b>30</b>
デルへのお問い合わせ.....	30
Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス.....	31

# はじめに

本書では、Microsoft System Center Configuration Manager ( SCCM ) または Microsoft Endpoint Configuration Manager ( MECM ) 用 Dell EMC Server Deployment Pack ( DSDP ) バージョン 4.1 で行える各種操作について説明します。

[ この DSDP v4.1 ( リビジョン A02 ) リリースは、関連する機能を備えた Microsoft System Center Configuration Manager ( Microsoft Endpoint Configuration Manager ) 製品の最終リリースです。このリリースおよび以前のリリースは、サポートされている PowerEdge サーバーで引き続き Web ダウンロード可能ですが、製品が完全に廃止されているため、追加の機能、新しいプラットフォーム、関連コンポーネントは追加されません。]

サポート対象システム リスト以外の PowerEdge サーバーの今後の世代とモデルはサポートされていません。つまり、[ この DSDP v4.1 ( A02 ) を最後に、新しいハードウェアおよびオペレーティング システム向けのソフトウェアが将来リリースされることはなく、] 現在リストされている PowerEdge サーバーでのみ使用可能になります。サポートされている機能の詳細については、[dell.com/support/documents](https://dell.com/support/documents) を参照してください。

**メモ:** Dell EMC では、Microsoft Endpoint Configuration Manager ( MECM ) 向け OpenManage Integration for Microsoft System Center ( OMIMSSC ) に直ちに移行することをお勧めします。

本書には、DSDP での作業に必要な要件と対応するソフトウェアに関する情報が含まれています。DSDP の本バージョンをリリース日からしばらくたってインストールする場合は、サポート サイトに本書のアップデート バージョンがないか確認してください。サポート サイトの文書にアクセスするには、「[Dell サポート サイトからの文書へのアクセス](#)」、または [Dell.com/support/Manuals/us/en/04/Product/server-deployment-pack-v4.1-sccm](https://Dell.com/support/Manuals/us/en/04/Product/server-deployment-pack-v4.1-sccm) を参照してください。

**メモ:** DSDP 4.1 には、すでに廃止されている Dell Deployment Toolkit ( DTK ) がパッケージ化されています。したがって、DTK はこの DSDP でのみ使用する必要があり、外部での使用はサポートされていません。

**メモ:** 関連付けられている Dell EMC Deployment Tool Kit ( DTK ) v6.4.0 は、最新のすべての iDRAC9 ベースの PowerEdge サーバーで使用可能で、[こちら](#)および [dell.com/support](https://dell.com/support) に記載されている新しく認定された PowerEdge サーバーに対してのみ Dell EMC Server Deployment Pack と使用されます。PowerEdge サーバーをサポートするための、Deployment Pack への追加のアップグレードは必要ありません。

**メモ:** iDRAC9 ベースのプラットフォームのリスト以外の PowerEdge サーバーはサポートされていません。

## トピック :

- [本リリースの新機能](#)
- [Dell EMC Server Deployment Pack 機能の概要](#)
- [Dell EMC Server Deployment Pack 向け Configuration Manager および Operating System Support Matrix](#)
- [複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ](#)

## 本リリースの新機能

- **メモ:** DSDP は、バージョン 4.1 ( リビジョン A02 ) リリースで廃止されます。これが最終リリースです。
- Configuration Manager の更新プログラム 2103 のサポート
- Configuration Manager の更新プログラム 2010 のサポート
- Configuration Manager の更新プログラム 2006 のサポート
- 最新の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバーのサポート ( インテル ):
  - R750
  - R750xa
  - R650
  - C6520
  - MX750c
  - R450
  - R550
  - R650xs

- R750xs
- Dell EMC システム向けの PowerEdge RAID コントローラー ( PERC )、シリーズ 9 および 10 のサポートは次のとおりです。
  - PERC H745
  - PERC H345
  - PERC H840
  - HBA345
  - HBA330 MMZ
  - PERC H745P MX
- .INI ファイル ( RACADM の廃止された機能に依存 ) を使用した iDRAC 構成の set と get は、iDRAC バージョン 4.40.40.00 以降ではサポートされていません。XML 入力ファイルを使用して iDRAC を構成します。
  - ① **メモ:** 最新の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバーをサポートするための DSDP への追加のアップグレードは必要ありません。提供された DTK v6.4 を、インストールされている DSDP 4.1 で使用します。

## Dell EMC Server Deployment Pack 機能の概要

Dell EMC Server Deployment Pack を使用すると、次のタスクを実行できます。

- .INI ファイルおよびコマンドライン インターフェイス ( CLI ) オプションを使用してのサーバーの Integrated Dell Remote Access Controller ( iDRAC )、RAID、BIOS、.XML ファイルの設定。
  - ① **メモ:** .INI ファイル ( RACADM の廃止された機能に依存 ) を使用した iDRAC 構成の set と get は、iDRAC バージョン 4.40.40.00 以降ではサポートされていません。XML 入力ファイルを使用して iDRAC を構成します。
  - ① **メモ:** Dell EMC Server Deployment Pack ( DSDP ) は、Dell PowerEdge Boot Optimized Storage Solution ( BOSS ) コントローラー、PowerEdge RAID コントローラー ( PERC )、シリーズ 11、Non-volatile memory エクスプレス ( NVMe ) への導入をサポートしていません。これらの新しいテクノロジーには、SCCM/MECM 用 OpenManage Integration for Microsoft System Center ( OMIMSSC ) を使用することをお勧めします。
- オペレーティングシステムの導入に使用する Dell 専用の起動イメージの作成。
- 特定の Dell サーバーのためのドライバインストールパッケージの作成と適用。
- 統合されたスタート機能により、オンサイト サーバーのインストールの典型的なサーバー導入を実行する各種ウィザードを起動できます。
- Configuration Manager の更新プログラム 2103、Configuration Manager の更新プログラム 2010、Configuration Manager の更新プログラム 2006、Configuration Manager の更新プログラム 2002、Configuration Manager の更新プログラム 1910、Configuration Manager の更新プログラム 1906、Configuration Manager の更新プログラム 1810、System Center Configuration Manager 2016、System Center Configuration Manager 2012 リリースのサポート。
- [ PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] を使用した Dell Deployment Toolkit ( DTK ) のインポート。
  - ① **メモ:** パッケージに含まれている DTK バージョン 6.4 は Dell EMC Server Deployment Pack ( DSDP ) でのみサポートされており、その他は対象外です。このバージョンの DTK を DSDP 外で使用することはサポートされていません。
  - ① **メモ:** すべての対応オペレーティングシステムについては、『Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack バージョン 4.1 インストールガイド』の「対応するオペレーティングシステム」のセクションを参照してください。

[ この DSDP v4.1 ( リビジョン A02 ) リリースは、関連する機能を備えた Microsoft System Center Configuration Manager ( Microsoft Endpoint Configuration Manager ) 製品の最終リリースです。このリリースおよび以前のリリースは、サポートされている PowerEdge サーバーで引き続き Web ダウンロード可能ですが、製品が完全に廃止されているため、追加の機能、新しいプラットフォーム、関連コンポーネントは追加されません。]

サポート対象システム リスト以外の PowerEdge サーバーの今後の世代とモデルはサポートされていません。つまり、[ この DSDP v4.1 ( A02 ) を最後に、新しいハードウェアおよびオペレーティングシステム向けのソフトウェアが将来リリースされることはなく、]現在リストされている PowerEdge サーバーでのみ使用可能になります。サポートされている機能の詳細については、[dell.com/support/documents](http://dell.com/support/documents) を参照してください。

- ① **メモ:** Dell EMC では、Microsoft Endpoint Configuration Manager ( MECM ) および System Center Virtual Machine Manager ( SCVMM ) 向け OpenManage Integration for Microsoft System Center ( OMIMSSC ) に直ちに移行することをお勧めします。

# Dell EMC Server Deployment Pack 向け Configuration Manager および Operating System Support Matrix

次の表では、Configuration Manager 向け Dell EMC Server Deployment Pack でサポートされているオペレーティングシステムについて説明します。

**表 1. WinPE 用 Dell EMC Server Deployment Pack でサポートされている互換性のあるオペレーティングシステム**

Configuration Manager バージョン	WinPE バージョン	オペレーティングシステムの導入
Configuration Manager の更新プログラム 2103	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> </ul>
Configuration Manager の更新プログラム 2010	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> </ul>
Configuration Manager の更新プログラム 2006	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> </ul>
Configuration Manager の更新プログラム 2002	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> </ul>
Configuration Manager の更新プログラム 1910	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> </ul>
Configuration Manager の更新プログラム 1906	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> </ul>
Configuration Manager の更新プログラム 1810	10.1	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2019</li> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> </ul>
System Center Configuration Manager 2016	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2016</li> <li>Windows Server 2012 R2</li> </ul>
System Center Configuration Manager 2012 SP2	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows Server 2008 R2*</li> </ul>
System Center Configuration Manager 2012 R2 SP1	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows Server 2008 R2*</li> </ul>
System Center Configuration Manager 2012 R2	5.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012 R2</li> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows Server 2008 R2*</li> </ul>
System Center Configuration Manager 2012 SP1	4.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2012</li> <li>Windows Server 2008 R2*</li> </ul>
System Center Configuration Manager 2012	3.0	<ul style="list-style-type: none"> <li>Windows Server 2008</li> <li>Windows Server 2008 R2</li> </ul>

凡例：

\* - Windows Server 2008 R2 のサポートについては、[support.microsoft.com/kb/2853726](http://support.microsoft.com/kb/2853726) にアクセスしてください。

# 複数のプライマリサイトサーバーに配布された Configuration Manager のセットアップ

DSDP は複数のプライマリサイトサーバーにインストールすることができます。プライマリサイトサーバーに DSDP をインストールしているときは、DTK のバージョンと、CAS およびすべてのプライマリサイトサーバーで使用されている OpenManage のバージョンが同じであることを確認してください。

インストールの制限事項は次のとおりです。

- DTK をインポートしたプライマリサイトサーバー 1 で DSDP がアンインストールされている場合は、プライマリサイトサーバー 2 の既存起動イメージを使用したり、そこで起動イメージを作成することもできません。起動イメージを作成するには、プライマリサイトサーバー 2 から DTK を再インポートします。最初に DTK がインポートされたサイトサーバーは、起動イメージドライバのソースとして機能します。
- 特定のサーバーモデル向けの OpenManage ドライバは、ひとつのプライマリサイトサーバーにしかインポートできません。このサーバーは、他のプライマリサイトサーバーの OM ドライバのソースとして機能します。
- プライマリサイトサーバーが 2 つ存在する場合は、Configuration Manager コンソールに 4 つの Dell パッケージが表示されます。それら 4 つのうち 2 つが元のソースで、残りの 2 つはセカンダリプライマリサイトからのインスタンスです。

## Configuration Manager を使用する前に

Configuration Manager の使用を開始する前に、次の作業を行うようにしてください。

- [ Dell Deployment Toolkit ( DTK ) ユーティリティと Windows PE ドライバの削除 ] オプションを使用して DSDP をアップグレードする場合、または DSDP を初めてインストールする場合は、DTK パッケージをインポートします。Configuration Manager の更新プログラム 2103、Configuration Manager の更新プログラム 2010、Configuration Manager の更新プログラム 2006、Configuration Manager の更新プログラム 2002、Configuration Manager の更新プログラム 1910、Configuration Manager の更新プログラム 1906、Configuration Manager の更新プログラム 1810、System Center Configuration Manager 2016、System Center Configuration Manager 2012 用の DTK パッケージのインポートの詳細については、「[ハードウェア構成および OS 導入用の DTK パッケージのインポート](#)」を参照してください。
- 適切なパッケージを Configuration Manager 配布ポイントに配布し、それらをアップデートします。[ 配布ポイントのアップデート ] 操作を行うと、インストールした Dell EMC Server Deployment Pack のすべてのパッケージが各配布ポイント上で確実にアップデートされます。配布操作は、クライアントシステムによる配布ポイントへのアクセスのために、ポイント上でそれらのパッケージが使用可能であることを確認します。配布ポイントの追加については、System Center Configuration Manager のオンライン マニュアルを参照してください。

**メモ:** パッケージに含まれている DTK バージョン 6.4.0 は、Dell EMC Server Deployment Pack ( DSDP ) でのみサポートされていて、その他は対象外です。

**メモ:** このパッケージは Dell サポート サイトからダウンロードでき、これを解凍することで、DTK .exe ファイルおよび CAB ファイルをインポートできます。

Dell EMC Server Deployment Pack の提供する統合されたスタート機能では、典型的なサーバー導入を実行する各種のウィザードを起動できます。ウィザードに順次アクセスするには、[ オペレーティングシステムの導入 ] ノードを右クリックし、[ Dell PowerEdge サーバーの導入 ] を選択します。Configuration Manager 用 DSDP を使用して、次のタスクが実行できます。

- Dell Deployment Toolkit ( DTK ) をインポートする。
- サーバー導入のための Dell 起動イメージを作成する。
- Dell EMC OpenManage Server ドライバー バックをインポートする。
- オペレーティング システム導入のタスク シーケンスを作成する。

**メモ:** Configuration Manager コンソールは常に管理者権限を使用して起動します。

**メモ:** MECM 2103 がインストールされているセットアップから開始して、MECM コンソールで Configuration Manager コンソールの起動ポイントを表示するには、[ MECM 階層 ] の設定プロパティの [ 階層オプションに対して許可されているコンソール 拡張機能のみを有効にする ] オプションを無効にする必要があります。詳細については、[Microsoft ドキュメント](#)の「[ Configuration Manager コンソール ] セクション」を参照してください。

### トピック :

- [Dell EMC Server Deployment Pack 向けの推奨 Dell Deployment Toolkit バージョン](#)

## Dell EMC Server Deployment Pack 向けの推奨 Dell Deployment Toolkit バージョン

DTK バージョンの DSDP は、次の Configuration Manager バージョンをサポートします。

- Configuration Manager の更新プログラム 2103
- Configuration Manager の更新プログラム 2010
- Configuration Manager の更新プログラム 2006
- Configuration Manager の更新プログラム 2002
- Configuration Manager の更新プログラム 1910
- Configuration Manager の更新プログラム 1906
- Configuration Manager の更新プログラム 1810
- System Center Configuration Manager 2016

- System Center Configuration Manager 2012 SP2
- System Center Configuration Manager 2012 R2 SP1
- System Center Configuration Manager 2012 R2
- System Center Configuration Manager 2012 SP1
- System Center Configuration Manager 2012

互換レベルの詳細については、『*Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack バージョン 4.1 インストールガイド*』を参照してください。

# System Center Configuration Manager 実行システムでの Dell EMC Server Deployment Pack の使用方法

このセクションでは、Configuration Manager の更新プログラム 2103、Configuration Manager の更新プログラム 2010、Configuration Manager の更新プログラム 2006、Configuration Manager の更新プログラム 2002、Configuration Manager の更新プログラム 1910、Configuration Manager の更新プログラム 1906、Configuration Manager の更新プログラム 1810、System Center Configuration Manager 2016、System Center Configuration Manager 2012 のいずれかを実行しているシステムで Dell EMC Server Deployment Pack を使用する方法について説明します。

## トピック：

- Dell ドライバ CAB ファイル
- Dell Deployment Toolkit
- Dell サーバードライバパッケージのインポート

## Dell ドライバ CAB ファイル

キャビネット (.cab) ファイルとは、ドライバやシステムファイルなどの他の配布ファイルを含む圧縮ファイルです。

Dell ドライバ CAB ファイルは、カスタマイズされた起動イメージを作成し、導入するための新しいレベルの柔軟性を提供します。

## 起動イメージの作成用の Dell ドライバ CAB ファイルのインポート

1. **Dell.com/support** から最新の CAB ファイルをダウンロードします。
2. [ Operations Manager コンソール ] を起動します。
3. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ アプリケーション管理 ] > [ パッケージ ] と選択します。
4. [[ パッケージ ]] を右クリックし、[[ Dell PowerEdge サーバードライバ導入 ]] > [[ Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動 ]] の順に選択します。  
[ Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] 画面が表示されます。
5. [ 参照 ] をクリックし、ダウンロードした CAB ファイルに移動して選択します。  
[ Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] の [ インポートする CAB の選択 ] セクションに、選択した CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが表示されます。

WinPE ドライバがこのシステムにすでにインストールされている場合は、[[ WinPE ドライバはこのシステムにすでに存在します。DTK または CAB ファイルをインポートすると、既存の WinPE ドライバが上書きされます。]] というメッセージが表示されます。[ 続行しますか? ]

Dell ドライバ CAB ファイルが正常にインポートされました。起動イメージを作成するには、[Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード] セクションの手順 7~11 を実行します。

## Dell ドライバ CAB ファイルのアップグレード

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
2. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ アプリケーション管理 ] > [ パッケージ ] と選択します。
3. [[ パッケージ ]] を右クリックし、[[ Dell PowerEdge サーバードライバ導入 ]] > [[ Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動 ]] の順に選択します。[ ]  
[ PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] 画面が表示されます。サーバー上に既存の CAB ファイルパッケージがある場合は、CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが「インポートする CAB の選択」セクションの下に表示されます。

- [ 参照 ] をクリックし、ダウンロードした CAB ファイルに移動して選択し、[ 次へ ] をクリックします。  
選択した CAB ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが [[ インポートする CAB の選択 ]] セクションに表示されます。
- [ 起動イメージ選択 ] で、次のオプションのいずれか 1 つを選択します。

**メモ:** 次のどのオプションでも x64 起動イメージを選択する場合は、事前に 64 ビット CAB ファイルをインポートするよう  
にしてください。

**WAIK/ADK ツールからの起動イメージを使用** このオプションを使用して、x64 および x86 両方の Dell 起動イメージを作成します。起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット ( WAIK ) または Windows アセスメント & デプロイメントキット ( ADK ) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。

**Configuration Manager からの既存の起動イメージを使用** このオプションで、Configuration Manager 内の既存の起動イメージを選択できます。ドロップダウンリストから既存の起動イメージを選択し、それを使用して Dell 起動イメージを作成します。

**カスタム起動イメージを使用** このオプションを使用して、他の場所からカスタム起動イメージをインポートします。Windows Imaging ( WIM ) ファイルの UNC ( Universal Naming Convention、汎用命名規則 ) パスを指定し、ドロップダウンリストから起動イメージを選択します。

**メモ:**

- Windows WinPE の [[ カスタム起動イメージを使用 ]] オプションを選択した場合は、ファイナライズされたイメージのみがサポートされます。
- 起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット ( WAIK ) または Windows アセスメント & デプロイメントキット ( ADK ) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。WAIK および ADK のバージョンの詳細については、Microsoft Windows AIK または Windows ADK のマニュアルを参照してください。
- WinPE イメージの最新アップデートがあることを確認します。詳細については、<https://docs.microsoft.com/en-us/windows-hardware/manufacture/desktop/winpe> を参照してください。
- CAB ファイル ドライバーで DTK .exe ドライバーをアップグレード中に、CAB ファイル ドライバーで既存の DTK ツールとドライバーが上書きされることがあります。

- [[ 次へ ]] をクリックします。  
[ 起動イメージプロパティ ] 画面が表示されます。
- [ 起動イメージプロパティ ] で、Dell 起動イメージの名前を入力します。  
[ バージョン ] および [ コメント ] フィールドはオプションです。
- [[ 作成 ]] をクリックします。  
起動イメージ作成プロセスが開始されます。進捗バーに起動イメージ作成の進捗状態が表示されます。起動イメージが作成されると、[[ 概要 ]] 画面に起動イメージ詳細が表示され、DTK または CAB ファイルの詳細、および成功状態などの情報が表示されます。
- 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、配布ポイントのアップデートと管理作業を行います。  
Dell ドライバ CAB ファイルからインポートされたドライバーは WinPE に投入されます。この処理は、Configuration Manager および ADK に依存します。起動イメージを作成する前に、これらの製品の制限事項を読むことをお勧めします。詳細については、[technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx](https://technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx) を参照してください。

**メモ:** CAB の設定詳細は、[ PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] を使用してのみ、表示することができます。

## Dell ドライバ CAB ファイルによる起動イメージのカスタマイズと OS の導入

Dell ドライバ CAB ファイルをインポートしたら、次のタスクを実行します。

- PowerEdge サーバ導入用の起動イメージの作成。
- 起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化。
- コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート。
- オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定。
- タスクシーケンスの導入。
- タスクシーケンスの導入方法。

## PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
2. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ オペレーティングシステム ] > [ 起動イメージ ] の順に選択します。
3. [ 起動イメージ ] を右クリックし、[[ Dell PowerEdge サーバーの導入 ]] > [[ Dell サーバー起動イメージの作成 ]] を選択します。  
[ Dell PowerEdge 起動イメージの作成ウィザード ] が表示されます。
4. [ 起動イメージ選択 ] で、次のオプションのいずれか 1つを選択します。  
**メモ:** 次のどのオプションでも x64 起動イメージを選択する場合は、事前に DTK の 64 ビットバージョンをインポートするようにしてください。

**WAIK/ADK ツールからの起動イメージを使用** このオプションを使用して、x64 および x86 両方の Dell 起動イメージを作成します。起動イメージ作成のソースは、その設定に応じて Windows 自動インストールキット ( WAIK ) または Windows アセスメント & デプロイメントキット ( ADK ) から取得され、すべての Windows PE カスタムインストールパッケージが起動イメージに追加されます。

**Configuration Manager からの既存の起動イメージを使用** このオプションで、Configuration Manager 内の既存の起動イメージを選択できます。ドロップダウンリストから既存の起動イメージを選択し、それを使用して Dell 起動イメージを作成します。

**カスタム起動イメージを使用** このオプションを使用して、他の場所からカスタム起動イメージをインポートします。Windows Imaging ( WIM ) ファイルの UNC ( Universal Naming Convention、汎用命名規則 ) パスを指定し、ドロップダウンリストから起動イメージを選択します。

**メモ:** Windows WinPE の [[ カスタム起動イメージを使用 ]] オプションを選択した場合は、ファイナライズされたイメージのみがサポートされます。

**メモ:** Windows PE カスタムブートイメージには、 [ XML ]、 [ Scripting ]、および [ WMI ] のパッケージがインストールされています。これらのパッケージのインストール方法の詳細については、『Microsoft Windows AIK』または『Windows ADK』マニュアルを参照してください。

5. [[ 次へ ]] をクリックします。  
[ 起動イメージプロパティ ] 画面が表示されます。
6. Dell 起動イメージの名前を入力します。  
[ バージョン ] および [ コメント ] フィールドはオプションです。
7. [[ 作成 ]] をクリックします。  
起動イメージ作成プロセスが開始されます。進捗バーに起動イメージ作成の進捗状態が表示されます。起動イメージが作成されると、[[ 概要 ]] 画面に起動イメージ詳細が表示され、DTK または CAB ファイルの詳細、および成功状態などの情報が表示されます。
8. 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、配布ポイントのアップデートと管理作業を行います。

DTK または CAB からインポートされたドライバーは WinPE に投入されます。このプロセスは Microsoft System Center Configuration Manager および ADK に依存します。起動イメージを作成する前に、これらの製品の制限事項を読むことをお勧めします。例：[technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx](http://technet.microsoft.com/en-us/library/hh825070.aspx)

**メモ:** DTK の設定詳細は、[ PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] を使用してのみ、表示することができます。

## 起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化

**メモ:** WinPE 環境でタスクシーケンスワークフローまたは失敗をデバッグするには、<F8> を押します。

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
2. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ オペレーティングシステム ] > [ 起動イメージ ] の順に選択します。
3. 起動イメージを右クリックし、[ プロパティ ] を選択します。
4. [ プロパティ ] ウィンドウで [ カスタマイズ ] タブを選択し、[ コマンドプロンプトを有効にする ( テストのみ ) ] チェックボックスをオンにします。
5. [ 適用 ] をクリックして配布に進み、起動イメージを SCCM の配布ポイントにアップデートします。詳細に関しては、[コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート](#)を参照してください。

## コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
2. 左ペインで、[[ ソフトウェア ライブラリ ]] > [[ 概要 ]] > [[ アプリケーション管理 ]] > [[ パッケージ ]] > [[ Dell PowerEdge 導入 ]] の順に選択します。
3. [ PowerEdge Deployment Toolkit Integration ] を右クリックし、[ コンテンツの配布 ] をクリックします。  
[ コンテンツの配布ウィザード ] が表示されます。
4. [ PowerEdge Deployment Toolkit Integration ] を右クリックし、[ 配布ポイントのアップデート ] をクリックします。  
確認を求めるメッセージボックスが表示されます。
5. [ OK ] をクリックして、配布ポイントをアップデートします。
6. [[ 次へ ]] をクリックして次のウィザードに進み、配布ポイントを管理します。詳細については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

**警告:** DSDP で作成された起動イメージの配布ポイントをアップデートする際に、[ 起動イメージの再ロード ] チェックボックスを選択しないようにしてください。

**メモ:** 作成された [ 起動イメージ ] は、Dell Deployment Toolkit のドライバーとツールでカスタマイズされます。配布ポイントのアップデート ウィザードで [ 起動イメージの再ロード ] チェックボックスを選択した場合、指定された WinPE およびクライアントバージョンを使用して起動イメージが再構築され、Dell Toolkit のドライバーおよびツールが失われます。再ロードされた起動イメージを導入に使用すると、BIOS 設定に失敗します。詳細については、<https://docs.microsoft.com/en-us/sccm/osd/get-started/manage-boot-images> を参照してください。

7. [ 概要 ] > [ 起動イメージ ] > [ オペレーティングシステム ] と移動します。
8. 作成した起動イメージを右クリックして、[ コンテンツの配布 ] をクリックします。  
[ コンテンツの配布ウィザード ] 画面が表示されます。
9. ウィザードに表示される手順に従って、配布ポイントを管理します。
10. インポートしたドライバパッケージ用の配布ポイントのアップデートと管理を行うには、[ ドライバパッケージ Dell PowerEdge ドライバパッケージ <Dell OpenManage バージョン> ] と移動します。  
ドライバパッケージウィンドウが表示されます。
11. 新しくインポートされた各ドライバパッケージを右クリックして、コンテンツの配布および配布ポイントのアップデート操作を行います。

## オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定

本項では、オペレーティングシステムイメージの適用と Dell ドライバの追加に必要な手順を説明します。

**メモ:** [ UEFI 起動モード ] での [[ ディスクのフォーマットおよびパーティション ]] タスク シーケンス ステップで、正しいパーティションが設定されていることを確認します。詳細については、マイクロソフトのマニュアル『Task sequence steps to manage BIOS to UEFI conversion』を参照してください。

## オペレーティングシステムイメージの適用

**メモ:** このタスクを始める前に、Configuration Manager の [ オペレーティングシステムイメージ ] ツリーに必要なオペレーティングシステムイメージファイル ( .wim ファイル ) があることを確認してください。

オペレーティングシステムイメージを適用するには、次の手順を実行します。

1. [ タスクシーケンスエディタ ] の左ペインにある [ オペレーティングシステムの導入 ] で [ オペレーティングシステムイメージの適用 ] をクリックします。
2. 次のオプションのいずれかを選択します。
  - [ 取り込んだイメージからオペレーティングシステムを適用する ]
  - [ 元のインストールソースからオペレーティングシステムを適用する ]
3. オペレーティングシステムの場所を参照して選択し、[ OK ] をクリックします。

## Dell ドライバパッケージの追加

1. [ タスクシーケンスエディタ ] の左側にある [ オペレーティングシステムの展開 ] で [ ドライバパッケージの適用 ] をクリックします。
2. [ 参照 ] をクリックします。  
[ ドライバパッケージの選択 ] ウィンドウが表示されます。
3. [ Dell PowerEdge ドライバパッケージ <OM バージョン> ] をクリックします。  
[ Dell EMC Server Deployment Pack ] で使用可能なドライバー パッケージのリストが表示されます。
4. PowerEdge サーバー用のパッケージ ( [ Dell R720-Microsoft Windows 2008x86 OMx.x バージョン ] など ) を選択します。
5. [ 適用 ] をクリックします。

**① メモ:** オペレーティング システムの展開後、インストールされている大容量ストレージ ドライバーが、タスク シーケンスで指定されているドライバーと同じであることを確認してください。異なる点が見つかった場合は、ドライバーを手動でアップデートします。

## タスクシーケンスの導入

### タスクシーケンスの導入方法

これでタスクシーケンスの準備ができました。次のいずれかの方法を使って作成したタスクシーケンスを導入します。

- CD を使った導入
- USB を使った導入
- PXE を使った導入

詳細については、System Center Configuration Manager のオンラインマニュアルを参照してください。

## Dell Deployment Toolkit

Dell Deployment Toolkit ( DTK ) には、一連のユーティリティ、サンプルスクリプト、およびサンプル設定ファイルが含まれており、Dell システムの導入および設定に使用できます。DTK を使用して、現在の導入プロセスを変更せずに信頼性の高い方法で、プレオペレーティングシステム環境での多数のシステム導入用に、スクリプトベースと RPM ベースのインストールを構築できます。DTK を使用すると、Dell システムに BIOS モードで、オペレーティングシステムをインストールできます。

**① メモ:** 起動に必要なドライバが含まれているフォルダが存在しない場合は、ウィザードにエラーメッセージが表示されます。

## ハードウェア設定および OS 導入用の DTK パッケージのインポート

1. DSDP とともにパッケージ化された DTK バージョン 6.4.0 を `dell support site` からダウンロードします。

**① メモ:** DTK v6.4.0 はすべての最新の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバーでのみサポートされています。

2. DTK ファイルが抽出された場所を参照して、.exe ファイルを実行します。
3. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
4. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ アプリケーション管理 ] > [ パッケージ ] と選択します。
5. [ パッケージ ] を右クリックし、[ Dell PowerEdge サーバー導入 ] > [ Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動 ] と選択します。  
[ Dell PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ] 画面が表示されます。
6. [ 参照 ] をクリックし、ダウンロードした DTK 自動解凍型ファイルに移動して選択します。  
[ インポート用に選択された DTK ] フィールドに、選択された DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。

**① メモ:** WinPE ドライバがシステムにインストールされている場合は、次のメッセージが表示されます。

[ このシステムには WinPE ドライバがすでに存在します。CAB ファイルをインポートすると既存の WinPE ドライバが上書きされます。続行しますか? ]

7. 起動イメージの作成については、「PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成」の項の手順 4~8 に従ってください。

## DTK パッケージのアップグレード

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
2. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ アプリケーション管理 ] > [ パッケージ ] と選択します。
3. [ パッケージ ] を右クリックし、[ Dell PowerEdge サーバー導入 ] > [ Deployment Toolkit 設定ウィザードの起動 ] と選択します。  
[[ PowerEdge Deployment ToolKit 設定ウィザード ]]画面が表示されます。サーバー上に既存の DTK ファイルパッケージがある場合、DTK ファイルのバージョン、Windows PE バージョン、およびアーキテクチャが、[[ システムに存在する DTK ]] の下に表示されます。
4. [ 参照 ] をクリックし、ダウンロードした DTK 自動解凍型 zip ファイルに移動して選択します。  
[ インポート用に選択された DTK ] フィールドに、選択された DTK のバージョン、Windows PE のバージョン、およびアーキテクチャが表示されます。
5. [[ 次へ ]] をクリックします。
6. **起動イメージ選択** 画面が表示されます。
7. 起動イメージのプロパティで、「Dell PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成」の項にある、起動イメージの作成のための手順 3~8 に従います。

## DTK による起動イメージのカスタマイズ、ハードウェアの設定、および OS の導入

DTK パッケージをインポートしたら、次のタスクを実行します。

1. PowerEdge サーバー導入用の起動イメージの作成
2. 起動イメージのデバッグのためのコマンドプロンプトの有効化
3. コンテンツの配布と配布ポイントのアップデート
4. サーバーのハードウェアコンポーネントの構成
5. タスクシーケンス操作の設定
6. RAID、DRAC、iDRAC 用のタスクシーケンスの作成
7. オペレーティングシステムイメージとドライバパッケージを適用するためのタスクシーケンス手順の設定
8. タスクシーケンスの導入
9. タスクシーケンスの導入方法

## System Lockdown モード

iDRAC の System Lockdown モード機能は、第 14 世代および最新の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバーで使用できます。この機能を有効にすると、システム設定の変更タスクがロックされます。この機能は、システムが誤って変更されないようにするためのものです。

オペレーティングシステムの導入中に、タスク シーケンスで `iDRACLockDownMode` 変数を設定します。

System Lockdown モードがオンの場合は、次の機能が制限されます。

- すべてのシステム設定変更タスクで [ 設定 ] 操作は実行できません。
- OS 導入

### メモ:

- System Lockdown モードでの OS 導入を制限するには、タスク シーケンスの導入済みセクションに値 0 の `iDRACLockDownMode` 変数を追加する必要があります。 `iDRACLockDownMode` 変数を追加するには、「[iDRACLockDownMode 変数の追加](#)」を参照してください。
- 次のシナリオでは、オペレーティングシステムの導入中に `iDRACLockDownMode` 変数をタスク シーケンスに設定しないでください。
  - DSDP は System Lockdown 機能をチェックせず、ハードウェア設定が選択されていない場合は OS の導入を続行します。
  - DSDP は System Lockdown 機能をチェックせず、CAB ファイルが存在する場合は OS の導入を続行します。

## iDRACLockDownMode 変数の追加

iDRACLockDownMode 変数を追加するには、次の手順に従います。

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
2. 左ペインで、[[ ソフトウェア ライブラリー ]] > [[ 概要 ]] > [[ オペレーティング システム ]] > [ タスク シーケンス ] の順に選択します。
3. 目的のタスク シーケンスを右クリックして、[[ 編集 ]] をクリックします。  
[ タスクシーケンスエディタ ] ウィンドウが表示されます。
4. [[ オペレーティング システムの展開 ]] をクリックします。
5. [[ オプション ]] > [[ 条件の追加 ]] > [[ タスク シーケンス変数 ]] オプションをクリックします。  
[[ タスク シーケンス変数 ]] ウィンドウが表示されます。
6. [[ タスクシーケンス変数 ]] ウィンドウで、次の情報を入力します。
  - a. [[ 変数 ]] テキスト ボックスに、変数の名前 **iDRACLockDownMode** を入力します。
  - b. [[ 条件 ]] ドロップダウン メニューから [ 等しい ] を選択します。
  - c. [[ 値 ]] テキスト ボックスに、「0」を入力します。
  - d. [[ OK ]] をクリックします。
7. [[ 適用 ]], [[ OK ]] の順にクリックします。

## サーバーのハードウェアコンポーネントの構成

お使いのサーバー上にある様々なコンポーネントを構成します。

### タスクシーケンスの作成

サーバーを設定するためのタスクシーケンスは、次の 2 とおりの方法で作成できます。

- PowerEdge サーバー展開テンプレートを使ってデルのタスクシーケンスを作成する。
- カスタムタスクシーケンスを作成する。

タスクシーケンスは、コマンドの成功または失敗に関わらず、次のタスクシーケンスの手順に進みます。

### Dell 固有のタスクシーケンスの作成

PowerEdge サーバー展開テンプレートを使って Dell のタスクシーケンスを作成するには、次の手順に従ってください。

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。  
[ Configuration Manager コンソール ] 画面が表示されます。
2. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリー ] > [ 概要 ] > [ オペレーティングシステム ] > [ タスクシーケンス ] の順に選択します。
3. [ タスクシーケンス ] を右クリックしてから、[ ベアメタルサーバー展開 ] > [ Dell PowerEdge サーバー展開テンプレートの作成 ] をクリックします。  
[ Dell PowerEdge サーバーの展開タスクシーケンスウィザード ] が表示されます。
4. [ タスクシーケンス名 ] フィールドにタスクシーケンスの名前を入力します。
5. ドロップダウンリストから使用する起動イメージを選択します。  
**i** **メモ:** 作成した Dell カスタムブートイメージの使用が推奨されます。
6. [ サーバーハードウェア設定 ] で、このタスクシーケンスで設定するハードウェアアイテムを選択します。
7. [ オペレーティングシステムのインストール ] で、次のオプションからオペレーティングシステムのインストールタイプを選択します。
  - [ OS WIM イメージを使用 ]
  - [ スクリプトによる OS インストール ]
8. [ 使用するオペレーティングシステムパッケージ ] ドロップダウンメニューから、オペレーティングシステムパッケージを選択します。
9. 使用するパッケージに [ unattend.xml ] が含まれている場合は、[ unattend.xml 情報を含むパッケージ ] メニューからそれを選択してください。それ以外の場合は、[ 今は選択しない ] を選択します。
10. [ 作成 ] をクリックします  
[ 作成されたタスクシーケンス ] ウィンドウが、作成したタスクシーケンスの名前と共に表示されます。
11. 表示される確認メッセージボックスで、[ 閉じる ] をクリックします。

## カスタムタスクシーケンスの作成

1. [ Operations Manager コンソール ] を起動します。  
[ Configuration Manager コンソール ] 画面が表示されます。
2. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] > [ 概要 ] > [ オペレーティングシステム ] > [ タスクシーケンス ] の順に選択します。
3. [ タスクシーケンス ] を右クリックし、[ タスクシーケンスの作成 ] をクリックします。  
[ タスクシーケンスの作成 ] ウィザードが表示されます。
4. [ 新しいカスタムタスクシーケンスの作成 ] を選択してから、[ 次へ ] をクリックします。
5. [ タスクシーケンス名 ] テキストボックスにタスクシーケンスの名前を入力します。
6. 作成した Dell 起動イメージを指定し、[ 次へ ] をクリックします。  
[ 設定の確認 ] 画面が表示されます。
7. 設定内容を確認して [ 次へ ] をクリックします。
8. 表示される確認メッセージボックスで、[ 閉じる ] をクリックします。

## タスクシーケンスの編集

1. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。  
[ Configuration Manager コンソール ] 画面が表示されます。
2. 左ペインで、[[ ソフトウェア ライブラリー ]] > [[ オペレーティング システム ]] > [[ タスク シーケンス ]] の順に選択します。
3. 編集するタスクシーケンスを右クリックし、[ 編集 ] をクリックします。  
[ タスクシーケンスエディタ ] ウィンドウが表示されます。
4. [ 追加 ] > [ Dell 展開 ] > [ Dell Lifecycle Controller からドライバを適用 ] をクリックします。  
Dell EMC Server Deployment Pack のカスタム処置がロードされます。タスク シーケンスを変更できるようになります。

### ① メモ:

- タスク シーケンスを初めて編集するときには、[[ Windows のセットアップと Configuration Manager ]] というエラー メッセージが表示されます。このエラーを解決するには、[ Configuration Manager クライアント アップグレード パッケージ ] を作成して選択します。パッケージの作成の詳細については、[Technet.microsoft.com](http://Technet.microsoft.com) で Configuration Manager のドキュメントを参照してください。
- タスク シーケンスの *Set RebootStep Variable* ステップが、設定された構成に対して有効になっていることを確認してください。

## タスクシーケンスへの Diskpart Clean の追加

1. [ タスクシーケンスエディタ ] で、[ 追加 ] > [ 一般 ] > [ コマンドライン ] とクリックします。
2. [ 名前 ] テキストボックスに、コマンドラインの名前として **Diskpart Clean** と入力します。
3. 入力コマンドラインオプション `diskpartclean.bat` を選択します。
4. [ Dell PowerEdge Deployment ] > [ Dell PowerEdge Custom Reboot Script ] パッケージを選択します。

## タスクシーケンス処置の設定

[ タスクシーケンスエディタ ] で [ PowerEdge サーバー設定 ] を選択すると、次のタブが表示されます。

- [ 処置設定 ]
- [ 変数置換 ]
- [ ログ/リターンファイル ]

本項では、[ 処置設定 ] タブについて説明します。[ 変数置換 ] タブに関する情報は、[変数置換](#)を参照してください。[ ログ/リターンファイル ] タブに関する情報は、[ログ/リターンファイル](#)を参照してください。

## 静的 IP ネットワークでのタスクシーケンスの導入

タスクシーケンスの導入には、次の手順が必要です。

- .CSV ファイルの準備
- ターゲットのインポート
- OS 導入用のブータブルメディアの作成
- OS 導入用のブータブルメディアの使用

## .CSV ファイルの準備

各ターゲットに行を追加することによって、C:\Program Files\Microsoft Configuration Manager\OSD\Lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\NetworkSetting\Samples\MACIPMap.csv にある CSV ファイルをアップデートします。

- ① **メモ:** 各ターゲットの MAC アドレスが、接続済みかつネットワーク上でアクティブなターゲットの NIC ポートの MAC アドレスと一致していることを確認します。
- ① **メモ:** [ EnableDHCP ] が true の場合、IPAddress、SubnetMask、および IPGateway の各値は無視されますが、DNS フィールドは WinPE および ポスト OSD ネットワーク設定の両方の DNS サーバーの設定に使用されます。

## ターゲットのインポート

1. Configuration Manager 左側の [ [ 資産とコンプライアンス ] ] を展開し、[ [ デバイス ] ] を右クリックして、[ [ コンピューター情報のインポート ] ] ウィザードを選択します。
2. [ [ ファイルを使用してコンピューターをインポート ] ] を選択し、[ [ 次へ ] ] をクリックします。
3. [ [ ファイルのインポート ] ] テキスト ボックスにファイルパスを入力するか、[ [ 参照 ] ] をクリックして、インポートするファイルの保存先とする場所を指定します。
4. [ [ 列見出しのあるファイル ] ] チェック ボックスを選択します。
5. [ [ 割り当て ] ] ドロップダウン リストから [ [ 変数 ] ] を選択し、[ [ 次へ ] ] をクリックします。
6. [ [ ターゲット コレクションの選択 ] ] ウィンドウで必要な設定を選択し、[ [ 次へ ] ] をクリックします。
  - ① **メモ:** 同じ名前の既存デバイスがある場合は、上書きされます。
7. [ [ 概要 ] ] ウィンドウで内容を確認して [ [ 次へ ] ] をクリックします。ウィザードによってファイルからコンピューターがインポートされ、確認メッセージが表示されます。

## OS 導入用のブータブルメディアの作成

1. Configuration Manager の左側で [ タスクシーケンス ] を右クリックし、[ タスクシーケンスメディアの作成 ] を選択します。
2. [ [ メディアの選択 ] ] ウィンドウで、[ [ ブータブル メディア ] ] を選択します。
3. [ オペレーティングシステムの無人導入を許可する ] チェックボックスを選択し、[ 次へ ] をクリックします。
4. [ メディア管理 ]、[ メディアの種類 ]、[ セキュリティ ]、および [ 起動イメージ ] ウィンドウで、一般的な環境に基づいてオプションを選択し、[ 次へ ] をクリックします。
5. [ カスタマイズ ] ウィンドウで、[ 起動前コマンドを有効にする ] チェックボックスを選択します。
6. [ コマンドライン入力 ] テキストボックスに、次のコマンドを入力します。

```
cscript.exe UpdateNI.vbs
```

7. [ 起動前コマンドにファイルを含める ] チェックボックスを選択します。
8. [ パッケージ ] の横にある [ 設定 ] をクリックして、[ Dell PowerEdge 導入 ] > [ Dell PowerEdge 起動ネットワーク設定 ] を選択します。
9. [ 配布ポイント ] テキストボックスの横にある [ 参照 ] をクリックし、該当する配布ポイントを選択して [ 次へ ] をクリックします。
10. [ 概要 ] ウィンドウで内容を確認して [ 次へ ] をクリックします。ブータブル メディアが作成され、確認メッセージが表示されます。

- ① **メモ:** 新しいエントリが MACIPMAP.csv に追加された場合は、[ PowerEdge 起動ネットワーク設定-<サイトコード> ] を [ 配布ポイント ] にアップデートして新しいタスクシーケンスのメディアを作成します。

**① メモ:** タスク シーケンス メディアへの起動時に、「Press any key to boot to CD\DVD」というプロンプトが表示されることがあります。このプロンプトを削除してタスク シーケンス メディアへの起動を自動実行させる場合の詳細については、[docs.microsoft.com](https://docs.microsoft.com)にある「EFI ベース PC への Windows のインストール」セクションを参照してください。

## OS 導入用のブータブルメディアの使用

オペレーティングシステムの導入は、タスクシーケンスに含まれているタスクが必要としなければ、無人で行われます。たとえば、Windows シリアル番号がタスクシーケンスにない場合、Windows オペレーティングシステムは導入プロセス中にその番号の入力を待ちます。

**① メモ:** サイトサーバーのタスクシーケンスで適切なドライバパッケージを選択する場合に限り、.CSV ファイルに入力されたすべてのサーバーに対して同じブータブルメディアを使用することができます。

## システム BIOS の設定

1. タスクシーケンスを右クリックして、「編集」をクリックします。
  2. [ タスク シーケンス エディター ] 左側の [[ ハードウェアの構成 ]] > [[ 手順 1 ]] で、[[ BIOS Config の設定 ( ini ファイル ) ]] > [[ 処置設定 ]] タブの順にクリックします。
  3. [ 設定処置タイプ ] ドロップダウンメニューから [ BIOS Config ( ini ファイル ) ] を選択します。  
[ 表示 ] ボタンが有効になります。  
**① メモ:** CLI オプションを使用してシステムを設定する場合は、[[ BIOS Config ( コマンドライン ) ]] を選択することもできます。CLI オプションの使用方法の詳細については、「[コマンドライン オプション](#)」を参照してください。
  4. [[ 表示 ]] をクリックして、[ .ini ] ファイルを開きます。必要な設定に従って変更を加え、ファイルを保存します。  
ini ファイル形式の詳細に関しては、[ [Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals) ] の『*Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド*』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。
  5. ポップアップメッセージの [ OK をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する ] を選択し、[ OK ] をクリックします。
  6. デフォルトディレクトリにファイルを保存します。  
デフォルトディレクトリの例として、`\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg` があります。
  7. [ 適用 ] をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
  8. [ 処置 ] ドロップダウンリストから [ 設定 ] を選択します。  
[[ 設定ファイル/コマンドライン パラメーター ]] フィールドが有効になります。詳細については、「[設定ファイル/コマンドライン パラメーターのオプション](#)」を参照してください。
- または、ドロップダウン リストから [[ <設定ファイルの作成> ]] オプションを選択して、[ .ini ] ファイルを最初から作成することもできます。

## ファイルまたはコマンドラインパラメータのオプションの設定

次の3つのオプションから選択できます。

- <設定ファイルの作成>
- <設定ファイルのインポート>
- <syscfg.ini> の編集

上記のいずれかのオプションを使用して .ini ファイルを作成した後、[ タスクシーケンスエディタウィンドウで適用 ] をクリックします。[ BIOS Config の設定 ( ini ファイル ) ] のタスクシーケンスが作成されます。

**△ 注意:** パッケージ内の新しいファイルをアップデートまたは保存しても、そのファイルはすべての配布ポイントにおいて自動的にアップデートされません。その新しいファイルを必要とするシステムでのファイルの可用性を確実にするには、ソフトウェア配布 → パッケージ → Dell PowerEdge 導入 → Dell PowerEdge Deployment ToolKit Integration <バージョン> ノードから、配布ポイントをアップデートする必要があります。

### <設定ファイルの作成>

<設定ファイルの作成> オプションを選択すると、[ 作成 ] ボタンが表示されます。

1. [ 作成 ] をクリックします
2. [ 設定ファイルエディタ ] で、次のいずれか1つのオプションを実行します。

- [ファイルのインポート] をクリックして既存の [.ini] ファイルをディレクトリからインポート。
  - [設定ファイルエディタ] フィールドでオンライン [.ini] を作成し、[OK] をクリック。これにより、作成した [.ini] ファイルを、希望のローカルドライブまたはネットワーク共有に保存するためのプロンプトが表示されます。
3. [OK] をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する] オプションを選択した場合、[OK] をクリックすると設定がファイルにエクスポートされます。

### <設定ファイルのインポート>

[<設定ファイルのインポート>] オプションを選択すると、[インポート] ボタンが表示されます。[インポート] をクリックして既存の .ini ファイルをインポートします。

### <syscfg.ini> の編集

これは BIOS .ini ファイルのサンプルです。

**メモ:** ini ファイル形式の詳細については、[Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals) で入手できる『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。

1. [表示] をクリックして、既存の syscfg.ini ファイルを表示します。
2. [設定ファイルエディタ] ウィンドウで syscfg.ini ファイルを編集し、[OK] をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する] オプションを選択して [OK] をクリックします。

### <raidcfg.ini> の編集

これは raidcfg.ini ファイルのサンプルです。

**メモ:** ini ファイル形式の詳細については、[Dell.com/support/manuals](http://Dell.com/support/manuals) で入手できる『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド』にある「サンプルファイル形式」の項を参照してください。

1. [表示] をクリックして、既存の raidcfg.ini ファイルを表示します。
2. [設定ファイルエディタ] ウィンドウで raidcfg.ini ファイルを編集し、[OK] をクリックしてこれらの変更をツールキットパッケージ内の既存ファイルに保存する] オプションを選択してから [OK] をクリックします。  
上記オプションのいずれかを用いて .ini ファイルを作成した後、[タスクシーケンスエディタに適用] ウィンドウをクリックします。[RAID Config の設定 (ini file)] のタスクシーケンスが作成されます。

## XML 入力を使用したシステム BIOS の設定

XML 入力を使用して、システム BIOS を設定するには、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを右クリックして、[編集] をクリックします。
2. [タスクシーケンスエディター] の左側の、[ハードウェアの構成] > [手順 1] で、[BIOS Config 設定 (xml ファイル)] > [処置設定] タブの順にクリックします。
3. [設定処置タイプ] ドロップダウンメニューから [BIOS Config (xml ファイル)] を選択します。
4. [設定ファイル/コマンドラインパラメータ] ドロップダウンリストから [syscfg\_xml.xml] を選択します。  
[表示] ボタンが有効になります。
5. [表示] をクリックして、[設定ファイルエディター] で [XML] ファイルを開きます。必要な設定に従って変更を加え、ファイルを保存します。

ini ファイル形式に関する情報は、次を参照してください。

- Dell の第 12 世代システムでは、『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド』の「サンプルファイル形式」を参照してください。
- Dell の第 13 世代システムでは、『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド』の「サンプルファイル形式」を参照してください。
- Dell の第 14 世代システムおよびすべての最新の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバー システムでは、『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド』の「サンプルファイル形式」を参照してください。

[Dell.com/support/manuals] で入手可能です。

6. [OK] をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する] を選択し、[OK] をクリックして変更を保存してから、[タスクシーケンスエディタ] に戻って [OK] をクリックします。
7. デフォルト ディレクトリにファイルを保存します。  
デフォルト ディレクトリの例: \\<site server hostname>\sms\_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg。
8. [適用] をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。

9. [ 処置 ] ドロップダウンリストから [ 設定 ] を選択します。  
[ 設定ファイル/コマンドライン パラメーター ] フィールドが有効になります。詳細については、「[設定ファイル/コマンドラインパラメーターのオプション](#)」を参照してください。

または、ドロップダウンから [ <設定ファイルの作成> ] オプションを選択して、[ XML ] ファイルを最初から作成することもできます。

## XML 入力を使用した iDRAC7、iDRAC8、iDRAC9 の構成

XML 入力を使用して iDRAC7、iDRAC8、iDRAC9 を構成するには、次の手順を実行します。

1. タスク シーケンスを右クリックして、[ 編集 ] をクリックします。
  2. [ タスク シーケンス エディター ] 左側の [ ハードウェアの構成 ] > [ 手順 1 ] で、[ iDRAC7 Config の設定 ( xml ファイル ) ] > [ 処置設定 ] タブの順にクリックします。
    - iDRAC8 では、[ ハードウェアの構成 ] > [ 手順 1 ] とクリックし、[ iDRAC8 Config の設定 ( xml ファイル ) ] > [ 処置設定 ] をクリックします。
    - iDRAC9 では、[ ハードウェアの構成 ] > [ 手順 1 ] とクリックし、[ iDRAC9 Config の設定 ( xml ファイル ) ] > [ 処置設定 ] をクリックします。
  3. [ 設定処置タイプ ] ドロップダウンメニューから [ iDRAC 7 Config ( xml ファイル ) ] を選択します。
    - iDRAC8 には [ iDRAC 8 Config ( xml ファイル ) ] オプションを選択します。
    - iDRAC9 には [ iDRAC 9 Config ( xml ファイル ) ] オプションを選択します。
  4. [ 設定ファイル/コマンドラインパラメータ ] ドロップダウンリストから [ idrac\_xml.xml ] を選択します。  
[ 表示 ] ボタンが有効になります。
  5. [ 表示 ] をクリックして、[ XML ] ファイルを開きます。必要な設定に従って変更を加え、ファイルを保存します。  
.XML ファイル形式についての情報は、次を参照してください。
    - Dell の第 12 世代システムでは、『[Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド](#)』の「[サンプルファイル形式](#)」を参照してください。また詳細については、「[Dell EMC Server Deployment Pack に対するコンソールおよび Operating System Support Matrix](#)」を参照してください。
    - Dell の第 13 世代システムでは、『[Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド](#)』の「[サンプルファイル形式](#)」を参照してください。また詳細については、「[Dell EMC Server Deployment Pack に対するコンソールおよび Operating System Support Matrix](#)」を参照してください。
    - Dell の第 14 世代システムおよび最新の iDRAC9 ベース PowerEdge サーバー システムでは、『[Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド](#)』の「[サンプルファイル形式](#)」を参照してください。また詳細については、「[Dell EMC Server Deployment Pack に対するコンソールおよび Operating System Support Matrix](#)」を参照してください。
- [ Dell.com/support/manuals ] で入手可能です。
6. [ OK をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する ] を選択して変更を保存し、[ タスク シーケンスエディタ ] に戻って [ OK ] をクリックします。
  7. デフォルト ディレクトリーにファイルを保存します。  
デフォルト ディレクトリーの例 : \\<site server hostname>\sms\_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Syscfg。
  8. [ 適用 ] をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。
  9. [ 処置 ] ドロップダウンリストから [ 設定 ] を選択します。  
[ 設定ファイル/コマンドライン パラメーター ] フィールドが有効になります。詳細については、「[設定ファイル/コマンドラインパラメーターのオプション](#)」を参照してください。

または、ドロップダウン リストから [ <設定ファイルの作成> ] オプションを選択して、[ XML ] ファイルを最初から作成することもできます。

## 起動順序の設定

1. タスクシーケンスを右クリックして、[ 編集 ] をクリックします。  
[ タスクシーケンスエディタ ] ウィンドウが表示されます。
2. [ 追加 ] > [ Dell 導入 ] > [ PowerEdge サーバー設定 ] とクリックします。  
Dell EMC Server Deployment Pack のカスタム処置がロードされます。
3. [ 設定処置タイプ ] ドロップダウンリストから [ 起動順序 ] を選択します。
4. [ 処置 ] ドロップダウンリストから [ 設定 ] を選択します。

5. [[ 設定ファイル/コマンドラインパラメーター ]] で、`select --bootseq=virtualcd.slot.1` を実行します。これにより、仮想 CD から起動するための起動順序が設定されます。デバイスの起動デバイス ID を取得するには、「[起動デバイス ID の取得](#)」を参照してください。

**メモ:** `--bootseq` オプション用のパラメーター詳細については、『[Dell Deployment Toolkit CLI ガイド](#)』を参照してください。

## 起動デバイス ID の取得

1. DSDP を使用してタスクシーケンスを作成します。
  - a. [ Dell タスクシーケンスの作成 ] ウィザードを起動します。
  - b. [ サーバーハードウェア ] で、[ BIOS config の設定 ] を選択します。
  - c. 適切な起動イメージ、資格情報、およびその他入力情報を選択します。
  - d. [ タスクシーケンスの作成と保存 ] をクリックします。
2. タスクシーケンスを編集して、[ 処置 ] ドロップダウンリストから [ 取得 ] を選択します。
  - a. タスクシーケンスを右クリックして、[ 編集 ] をクリックします。
  - b. OS の導入は不要であることから、[ リファレンスマシンの構築 ] 手順を削除します。
  - c. [ BIOS Config の設定 ( ini ファイル) ] をクリックします。
  - d. 処置を [ 取得 ] に変更します。
  - e. [ 設定ファイル/コマンドラインパラメータ ] にファイル名を入力します。このファイル名は、タスクシーケンス実行後に作成される BIOS config ファイルに割り当てられます。
  - f. [ ログ/リターンファイル ] タブで、ファイルを作成する場所の共有パスと資格情報を入力します。
  - g. タスクシーケンスを保存します。
3. 起動順序を設定する必要があるターゲットでタスクシーケンスを実行します。前述の共有場所に、ファイルが指定したファイル名で作成されます。
4. config ファイルから、[ bootseq ] 属性用の値を選択します。例えば、`bootseq=nic.emb.1,cdrom.emb.0,hdd.emb.0,virtualfloppy.slot.1,virtualcd.slot.1` です。コマンドで区切られた値は、ターゲット内の個々の起動可能デバイスです。
5. 起動順序に設定するデバイスのデバイス ID を選択します。例えば、`hdd.emb.0` です。

## RAID Config ( ウィザード ) を使用した RAID の設定

[ RAID Config ( ウィザード ) ] を使用することにより、新しい設定ファイルを作成、または既存の設定をインポートして、システム上に RAID を設定することができます。

たとえば、[ RAID Config ( ウィザード ) ] を使用して新しい設定ファイルを作成することによって RAID を設定するには、次の手順に従います。[ タスク シーケンス エディター ] の左側の [[ ハードウェアの構成 ]] > [[ 手順 1 ]] で、[[ RAID Config ( ウィザード ) の設定 ]] をクリックします。

[ 設定ファイル/コマンドラインパラメータ ] には、次の選択可能な 3 つのオプションがあります。

- <設定ファイルの作成>
- <設定ファイルのインポート>
- <サンプル.xml>

### <設定ファイルの作成>

RAID 向けの手順を作成するには、次を実行します。

1. ドロップダウンメニューからサンプル.ini ファイルを選択します。  
[ 表示 ] ボタンが有効になります。
2. [[ 表示 ]] をクリックして、.ini ファイルを開きます。必要な設定に従って変更を加え、ファイルを保存します。  
.ini ファイル形式の詳細については、『[Dell OpenManage Deployment Toolkit バージョン 4.4 コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド](#)』の「サンプルファイル形式」を参照してください。このガイドは、[www.dell.com/support/manuals](http://www.dell.com/support/manuals) にあります。
3. [ OK をクリックしてこのカスタム処置用のツールキットパッケージのファイルに保存する ] を選択し、[ OK ] をクリックして [ タスクシーケンスエディタ ] ウィンドウに戻ります。
4. [[ OK ]] をクリックします。

5. デフォルトディレクトリにファイルを保存します。

デフォルトディレクトリの例として、`\\<site server hostname>\sms_<site code>\OSD\lib\Packages\Deployment\Dell\PowerEdge\DTK\Template\Configs\Raidcfg` があります。

6. [ 適用 ] をクリックして編集済みファイルをタスクシーケンスに保存します。

または、ドロップダウンから [[ <設定ファイルの作成> ]] オプションを選択して、.ini ファイルを最初から作成することもできます。

### <設定ファイルのインポート>

1. [ 設定ファイル/コマンドラインパラメータ ] ドロップダウンメニューから [ <設定ファイルのインポート> ] を選択します。

2. [ インポート ] をクリックします。

3. インポートする設定ファイルの場所を指定して [ 開く ] をクリックします。

### <サンプル.xml>

1. [ 設定ファイル/コマンドラインパラメータ ] ドロップダウンリストから、<サンプル.xml> を選択します。

2. [ 表示 ] をクリックします。

3. [ サンプル.xml ] の編集については、<設定ファイルの作成>を参照してください。

## RAID および iDRAC 用のタスク シーケンスの作成

[ 設定処置の種類 ] メニューから、次の表にリストされているオプションを選択して、RAID および iDRAC 用のタスク シーケンスを作成します。

表 2. RAID および iDRAC 用のタスク シーケンスの作成

オプション	サブオプション	説明
[ RAID 設定 (.ini ファイル) ]	5i-raid0.ini	RAID 0 用のサンプルファイル
	5i-raid1.ini	RAID 1 用のサンプルファイル
	5i-raid5.ini	RAID 5 用のサンプルファイル
	raidcfg.ini	既存の [ raidcfg.ini ] ファイルを使用して RAID を設定します。同様のサンプルについては、[ <syscfg.ini の編集> ] を参照してください。
	iscsicfg.ini	既存の [ iscsicfg.ini ] ファイルを使用して RAID を設定します。同様のサンプルについては、[ <syscfg.ini の編集> ] を参照してください。
[ RAID 設定 ( コマンドライン ) ]	なし	このオプションは、CLI を使って手動で RAID トークンを設定する場合に使用します。
[ iDRAC 設定 ]	<設定ファイルの作成>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルの作成> を参照して下さい。
	<設定ファイルのインポート>	BIOS オプションの詳細に関しては、<設定ファイルのインポート> を参照して下さい。
	idrac()cfg.ini	iDRAC を設定するには、既存の [ idrac6cfg.ini ], [ idrac7cfg.ini ], [ idrac8cfg.ini ], [ idrac9cfg.ini ] ファイルをそれぞれ使用します。同様のサンプルについては、[ <syscfg.ini の編集> ] を参照してください。

**メモ:** .INI ファイル ( RACADM の廃止された機能に依存 ) を使用した iDRAC 構成の set と get は、iDRAC バージョン 4.40.40.00 以降ではサポートされていません。XML 入力ファイルを使用して iDRAC を構成します。

システムの BIOS、RAID、iDRAC の設定後、タスク シーケンス エディターに、ハードウェア コンポーネント シーケンスが表示されます。

## 変数置き換え

[ 変数置き換え ] タブでは、次のようなタスク変数を使用し、設定することができます。

- [ システム変数 ]
- [ タスクシーケンス変数 ]
- [ マシン変数 ]
- [ コレクション変数 ]

## 変数置換タブオプションの設定

1. [ 変数が初期化されていない、または値が null か空白の場合の処置 ] セクションで、次のいずれか 1 つのオプションを選択します。

**null/ 空白値を使用する** 初期化されていない変数や、空白値を持つ変数を使用します。これにより、変数が未定義または空白の場合でも、クライアントは処置の処理を継続できます。

**タスクを使用不可にする** 有効な変数値を取得できない処置を使用不可にします。これにより、失敗したコマンドライン、または誤って設定されたシステムのデバッグを試行するかわりに、処置の不具合を表示することができます。

2. [ 置き換える変数のすべてのテキスト入力ファイルを検索 ] を選択して、次の操作を行います。

- クライアント側のスクリプトを有効にして、コマンドライン内、または指定したファイル内の変数を検索して置き換えを行う。
- 変数をタスクシーケンス環境または Windows システム環境内で検出された値に置き換える。

処置のパフォーマンスの最適化のため、[ 置き換える変数のすべてのテキスト入力ファイルを検索 ] チェックボックスをクリアします。

3. [ 提供および確定されたパスワードでの処置 ] ダイアログボックスのインスタンスを置換するには、[ このパスワードで %PASSWORD% 変数を置換する ] を選択します。

4. システムで追加の変数を設定するには、[ 手動で追加変数を定義する ] を選択します。追加の変数を定義するには、次の手順を実行します。

- a. 変数の [ 名前 ] を入力します。
- b. 変数の [ 値 ] を入力します。
- c. 変数の [ タイプ ] をドロップダウンメニューから選択します。

5. [ 適用 ]、[ OK ] の順にクリックします。

## ログファイルの取得または設定ファイルのキャプチャ

1. [ この処置の実行後、タスクシーケンスのログファイルをクライアントから取得する ] を選択します。

2. ログファイルの詳細情報を取得するには、[ この処置で拡張 / デバッグロギングを有効にする ] を選択します。

3. [ 前の手順からのネットワークフォルダ設定があればそれを維持する ] を選択して以前の手順から使用可能なネットワークフォルダ設定をコピーする、**または** 手順 4 に進んでネットワークフォルダを設定します。

4. ファイルを保存するための有効なネットワーク / ローカルパスを入力します。

5. そのパスにアクセスするためのドメインおよびアカウント名を入力します。

6. パスワードを入力して確認します。

7. 手順 4 でネットワークパスを指定した場合、[ 上記のネットワーク共有にドライブ文字をマップする ] を選択し、ドロップダウンメニューからドライブ文字を選択します。

8. [ 適用 ]、[ OK ] の順にクリックします。

# Dell サーバードライバパッケージのインポート


Dell EMC Server Deployment Pack は、[ Dell EMC OpenManage Server ドライバ パック ] で使用可能なドライバーからのサーバーとオペレーティングシステムの組み合わせに基づいて、Configuration Manager でドライバー パッケージを作成するウィザードを提供します。これらのパッケージは、オペレーティングシステムの導入に使用されるタスク シーケンスで使用されます。

1. Dell サポート サイト ( [dell.com/support](http://dell.com/support) ) から最新の ISO をダウンロードします。
2. [ Configuration Manager コンソール ] を起動します。
3. 左ペインで、[ ソフトウェアライブラリ ] → [ 概要 ] → [ オペレーティングシステム ] → [ ドライバパッケージ ] と選択します。
4. [ ドライバ パッケージ ] を右クリックして、[ Dell サーバードライバ パッケージ ] > [ Dell PowerEdge サーバードライバパッケージのインポート ] の順に選択します。[ Dell PowerEdge サーバードライバパッケージのインポート ウィザード ] が表示され、[ Dell EMC OpenManage Server ドライバ パック ] の場所を確認します。

## メモ:

- ISO イメージをダウンロード済みの場合は、物理ディスクを作成、または仮想ディスク上にそれをマウントします。
- Dell EMC OM Server Driver Pack ISO バージョン 10.1 を使用します。

5. ISO を挿入したドライブを選択して、[ 次へ ] をクリックします。  
システムとオペレーティングシステムの組み合わせに対するドライバパッケージのリストが表示されます。
6. 必要なパッケージを選択し、[ 終了 ] をクリックします。  
プログレス バーにインポートのステータスが表示されます。インポートが完了すると、インポートの概要が表示されます。

 **メモ:** ドライバのインポートには時間がかかったり、進捗バーがすぐにアップデートされない場合があります。

7. [ 閉じる ] をクリックします。

# トラブルシューティング

**① メモ:** トラブルシューティングの項に記載されたサンプルコマンドを実行する前に、DTK マニュアルを参照し、必要な場合は、マシン構成に基いてコマンドを再作成してください。

## トピック:

- コマンドラインインタフェースを使用して RAID をシステムに適用しようとするエラーが発生する

## コマンドラインインタフェースを使用して RAID をシステムに適用しようとするエラーが発生する

以前のバージョンの RAID が設定済みのシステム上でコマンドラインインタフェース (CLI) を使用して RAID を適用しようすると、エラーが表示されます。

**対応処置:** Dell PowerEdge サーバー設定タスクシーケンス手順 (RAID コマンドライン) をもう1つ追加して、既存の RAID レベルをクリアします。詳細に関しては、『Dell Deployment Toolkit ユーザーズガイド』を参照してください。

### アップグレードシナリオ 1

DTK ユーティリティ、Windows PE ドライバー、DSDP で作成された起動イメージを維持して、DSDP のバージョンを 4.0 から 4.1 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを編集するには、左ペインの [追加] ドロップダウンメニューから、[全般] をクリックし、[タスクシーケンス変数の設定] をクリックします。
2. 次の詳細を使用して、[Windows PE で再起動] の後、[Site Server アドレスを設定] を追加します。
  - [名前] に、[Set Site Server Address] と入力します。
  - [タスクシーケンス変数] に、[SiteServer] と入力します。
  - [値] に、[ <Site server FQDN> ] と入力します。例: ss1.abc.com
  - [適用]、[OK] の順にクリックします。
3. [PowerEdge Custom Reboot Script] と [PowerEdge Deployment Toolkit の統合] パッケージを配布しアップデートします。

**① メモ:** アップグレード中、起動イメージに割り当てられているドライバが削除され、起動イメージをタスクシーケンスにリンクし、起動イメージにドライバを投入する必要があります。

### アップグレードシナリオ 2

DTK ユーティリティ、Windows PE ドライバー、DSDP で作成された起動イメージを削除して、DSDP のバージョンを 4.0 から 4.1 にアップグレードする場合は、次の手順を実行します。

1. タスクシーケンスを編集します。

**① メモ:** タスクシーケンスを編集すると、次のエラーメッセージが表示されます。

[ Diskpart Clean ステップによりパッケージへの参照が失われています。 ]

メッセージのプロンプトで、[[ OK ]] をクリックします。

2. [[ DiskPart Clean ]] タブを選択します。[[ 参照 ]] をクリックして、[Dell PowerEdge カスタム再起動スクリプトパッケージ] を選択します。
3. 左ペインの [追加] ドロップダウンメニューから、[全般] をクリックし、[タスクシーケンス変数の設定] をクリックします。
4. 次の詳細を使用して、[Windows PE で再起動] の後、[Site Server アドレスを設定] を追加します。
  - [名前] に、[Set Site Server Address] と入力します。

- [ **タスク シーケンス変数** ] に、「SiteServer」と入力します。
- [ **値** ] に、「 <Site server FQDN>」と入力します。たとえば：ss1.abc.com
- [ **適用** ]、[ **OK** ] の順にクリックします。

5. [ PowerEdge Custom Reboot Script ] と [ PowerEdge Deployment Toolkit の統合 ] パッケージを配布しアップデートします。

**①** **メモ:** アップグレード中、ドライバーが削除され、ブートイメージを作成し、ブートイメージをタスクシーケンスにリンクしてから、ブートイメージにドライバーを注入する必要があります。

## コマンドラインオプション

DSDP は、Dell Deployment Toolkit でサポートされているコマンドラインオプションをサポートしています。

コマンドライン オプション、使用ガイドライン、および構文の詳細については、『Dell OpenManage Deployment Toolkit コマンドライン インターフェイス リファレンス ガイド』を参照してください。

DSDP でサポートされる SYSCFG および RAIDCFG コマンド

- SYSCFG — Deployment Toolkit ( DTK ) システム設定ユーティリティの SYSCFG コマンドは、設定ファイル形式、サーバー BIOS の設定に使用する個々の実行可能ファイルと、DTK 状態設定に関する情報、および PCI デバイス検出を含むシステム情報を取得するためのコマンドの実行を可能にします。
- RAIDCFG — Deployment Toolkit ( DTK ) RAID 設定ユーティリティ RAIDCFG は、すべての対応 RAID コントローラを設定するためのコマンドを提供します。

**メモ:** 正確な結果を得るため、[ タスクシーケンス ] ウィザードでコマンドライン オプションを入力することをお勧めします。

—acpower

表 3. SYSCFG コマンド

オプション	<code>--acpower</code>
有効な引数	on、off、last
説明	<p>AC 電源が失われた後のシステムの動作を設定します。このオプションでは、AC 電源の復旧に対するシステムの応答方法を指定します。これは、電源タップを使用して電源がオフになっているシステムで特に便利です。[[ オン ]] に設定すると、AC 電源が回復するとシステムもオンになります。[[ オフ ]] に設定すると、AC 電源が回復するとシステムがオンになりません。[[ 最後 ]] に設定すると、AC 電源が失われた時にシステムがオンだった場合に、システムがオンになります。AC 電源が失われた時にシステムがオフになっていた場合、電源が回復してもシステムはオフのままです。このオプションはレプリケーションできます。</p> <p>例：</p> <pre>A:&gt;syscfg --acpower=on acpower=on</pre>
適用可能なシステム	PowerEdge 12G 以降のすべての Dell PowerEdge システム。

このコマンドを DSDP で使用するときは、syscfg を削除してコマンドを実行します。

```
--acpower=on acpower=on
```

表 4. RAIDCFG コマンド

必須オプションおよび引数	オプションパラメータ	有効なパラメータ引数	説明
<pre>-vd -vd=id - ac=svdn - vdn= &lt;string&gt; - c=idま たは vdisk vdisk= id action= setvdname vdname=&lt;string&gt; controllerid= id</pre>	該当なし	該当なし	<p>指定したコントローラ上で指定した仮想ディスクの名前を設定します。</p> <p>例：</p> <pre>A:&gt;raidcfg -vd -vd=2 -ac=svdn -vdn=xxx -c=2 RAIDCFG Command successful!</pre>

このコマンドを DSDP で使用するときは、raidcfg を削除してコマンドを実行します。

```
-vd -vd=2 -ac=svdn -vdn=xxx -c=2 RAIDCFG Command successful!
```

## デルのその他のマニュアル

具体的な Dell OpenManage 製品についての詳細を知るには、本ガイドおよびオンライン ヘルプに加えて、次のマニュアルを参照する必要があります。これらの文書は、[dell.com/support/manuals](https://dell.com/support/manuals) にあります。

- 『*Microsoft System Center Configuration Manager 用 Dell EMC Server Deployment Pack バージョン 4.1 インストール ガイド*』では、お使いのシステムへの DSDP 4.1 のインストールについて説明しています。
- 『*Dell Chassis Management Controller ユーザーズガイド*』には、Dell サーバーが設置されているシャーシ内の全モジュールを管理するコントローラの使用についての包括的な情報が提供されています。
- 『*Integrated Dell Remote Access Controller ユーザーズガイド*』には、を管理および管理下システムでの Integrated Dell Remote Access Controller ( iDRAC ) インストール、設定、およびメンテナンスの実行に関する情報が提供されています。
- 『*iDRAC および CMC 向けコマンド ライン リファレンス ガイド*』および『*PowerEdge MX7000 シャーシ用 Dell EMC OpenManage Enterprise Modular Edition*』では、PowerEdge プラットフォームで RACADM コマンド ライン ユーティリティを使用する方法について包括的に説明しています。
- 『*Dell OpenManage Deployment ToolKit ユーザーズガイド*』では、Windows Preinstallation Environment ( Windows PE ) または組み込まれた Linux を使用した正常な導入のための基本的な作業に焦点を当てた、一般的なベストプラクティス手順が記載されています。
- 『*Dell OpenManage Deployment ToolKit コマンドラインインタフェースリファレンスガイド*』では、システム機能を設定するためのコマンドラインユーティリティについての情報を提供します
- 『*Server Update Utility ユーザーズガイド*』は、アップデートを識別してシステムに適用する方法を説明しています。
- 『*Dell Repository Manager ユーザーズガイド*』では、Microsoft Windows オペレーティングシステムが動作しているサーバー上でカスタマイズされたバンドルやリポジトリを作成する方法について説明しています。
- 『*用語集*』では、本書で使用される用語について説明しています。
- Integrated Dell Remote Access Controller with Lifecycle Controller ユーザーズ ガイド

### トピック：

- [デルへのお問い合わせ](#)
- [Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス](#)

## デルへのお問い合わせ

**① メモ:** アクティブなインターネット接続がない場合は、ご購入時の納品書、出荷伝票、請求書、デル製品カタログで連絡先をご確認いただけます。

Dell EMC では、オンラインおよび電話によるサポートとサービスオプションをいくつかご用意しています。これらのサービスは国および製品によって異なり、お住まいの地域では一部のサービスがご利用いただけない場合があります。デルのセールス、テクニカルサポート、またはカスタマーサービスへは、次の手順でお問い合わせいただけます。

1. [Dell.com/support](https://dell.com/support) にアクセスしてください。
2. サポートカテゴリを選択します。
3. ページの下部にある [ 国 / 地域の選択 ] ドロップダウンリストで、お住まいの国または地域を確認します。
4. 目的のサービスまたはサポートを選択します。

**① メモ:** リモート エンタープライズ システム向けの全マニュアルについては、[ [dell.com/esmmanuals](https://dell.com/esmmanuals) ] にアクセスしてください。マニュアル サポートの詳細については、[ [www.dell.com/support/manuals](https://www.dell.com/support/manuals) ] を参照してください。マニュアル ページで、[ ソフトウェア ] > [ システム管理 ] をクリックします。右側の該当する製品をクリックして、マニュアルにアクセスします。

# Dell EMC サポート サイトからのサポート コンテンツへのアクセス

直接リンクを使用して Dell EMC サポート サイトに移動するか、検索エンジンを使用して、一連のシステム管理ツールに関連するサポート コンテンツにアクセスします。

- 直接リンク：
  - Dell EMC エンタープライズ システム管理および Dell EMC リモート エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/esmmanuals>
  - Dell EMC 仮想化ソリューション：[www.dell.com/virtualizationsolutions](http://www.dell.com/virtualizationsolutions)
  - Dell EMC OpenManage：<https://www.dell.com/openmanagemanuals>
  - iDRAC：<https://www.dell.com/idracmanuals>
  - Dell EMC OpenManage Connections エンタープライズ システム管理：<https://www.dell.com/OMConnectionsEnterpriseSystemsManagement>
  - Dell EMC Serviceability Tools：<https://www.dell.com/serviceabilitytools>
- Dell EMC サポート サイト：
  1. <https://www.dell.com/support> にアクセスします。
  2. [ すべての製品の参照 ] をクリックします。
  3. [ すべての製品 ] ページで [ ソフトウェア ] をクリックして、次に必要なリンクをクリックします。
  4. 必要な製品をクリックして、必要なバージョンをクリックします。

検索エンジンを使用する場合は、検索ボックスにドキュメントの名前とバージョンを入力します。